

LPガスCP速報(2022年11月積)

1. 11月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **610** ドル (前月比+20 ドル)

ブタン **610** ドル (前月比+50 ドル)

① LPガススポット市況等

原油市況が乱高下するなか、LPガス市場をみると、需要期を迎えたが、欧米はじめ温暖な気候でプロパン需要は低迷、ブタンはナフサ反騰で石化需要の回帰がみられたが、インド、東南アジアの需要は低調。中東市場は、産ガス国の供給が潤沢、需要は、中国の国慶節休暇やコロナ感染拡大の影響もあり低迷していたが、PDH需要に回復傾向がみられ、米国積みがパナマ運河渋滞で遅滞、イランのストによる輸出減少もあり需給がタイト化した。極東CFRは第2週にプロパン605 ドル 、ブタン590 ドル まで軟化した。第3週には一時655 ドル まで急騰した。

米国市場をみると、輸出は堅調、高水準が続いているが、需要は低迷、供給増で在庫が積み上がってきた。全米プロパン在庫は32週連続の増加、9週連続で前年同期を上回り、5年平均を上回った。モンベルビュープロパンスポット価格は、在庫増を受けて続落。第2週には420 ドル どころに軟化、下旬には原油市況の反発もあり450 ドル を回復したが、MB月間平均は前月比70 ドル 続落の447 ドル どころ(グラフ①)、昨年5月の以来の安値。

フレート市況は、船舶需給が引き締まり大幅続伸。産ガス国の供給が潤沢ななか、パナマ運河の滞船日数が増加、中東市場も中国、インドの滞船により需給がタイト化、冬場の需要期を迎え備船需要やスポット販売の需要が高まりフレート市況は急伸した。

ナフサ市況は堅調、月間平均は前月比24 ドル 反発の680 ドル どころ。原油市況が反発したのを受けたもの。中国石化需要が回復傾向、国産ナフサは円安で下げ止まった。ナフサ市況の反発でブタンの価格競争力が回復、石化需要の回帰が期待されている。

バンカーオイルをみると、シンガポールIFO380は月間平均で前月比25 ドル 続落の394 ドル となった。一方、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は同73 ドル の急反騰で1,046 ドル どころ、世界的低水準在庫により高騰しているガスオイル価格は再び1,000 ドル 超え。両油種の価格差は652 ドル に拡大、ガスオイルはC重油の2.7倍の価格。

11月CPは前年同月比プロパン260 ドル 、ブタン220 ドル それぞれ下落。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン5、ブタン9ポイント上昇、前年同月比ではプロパン48、ブタン45ポイント低い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	81	89	93	103	92
CP先物指標：P	605	555	575	605	585
CP先物指標：B	590	535	560	600	571

② 原油市況等

10月の原油市況をみると、月間平均では4ヶ月ぶりの上昇となったが、ロシアのウクライナ侵攻以前である1月以来の安値水準。原油市況の重石となっているのは、欧米中央銀行の利上げに伴う景気後退や中国のコロナ対策規制による需要減退懸念で、一方、供給は11月からOPECプラスが減産を実施、12月には対ロシア制裁として石油禁輸、価格上限設定の措置が発効され、供給タイト感が市況を下支えしている。

米国の原油生産量は2020年4月以来の1,200万b/d超が続き、原油・石油製品輸出は過去最高を記録するなど高水準となっているが、在庫水準は石油製品が5年平均レンジの下方を突き抜け超タイト(SPR原油は前年同期の65%、1984年以来の低水準)。現行マーケットは需給タイトとリセッション懸念で綱引きが行われているが、先物市場はファンド、ヘッジ双方ともにポジション縮小が顕著、流動性が低く、ボラティリティが高い状況が続いている。

○10月積みアラビアン・ライト(10月1~31日までの想定)は96.65 ドル (前月比-4.00 ドル)

熱量等価AL100% プロパン792.43 $\text{ドル}/\text{トン}$ ブタン781.56 $\text{ドル}/\text{トン}$

AL比 プロパン76.98% ブタン78.05%

*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

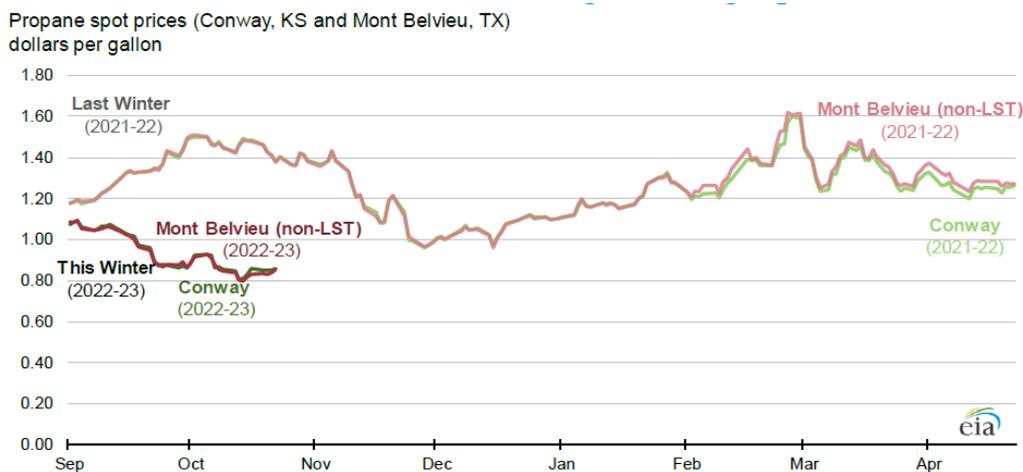
2. 2022年11月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	TTS	P円建CFR	B円建CFR	P前月比	B前月比
①20日締め	146.87	98,100	97,300	-1,000	+2,700
②末日締め	148.19	98,100	98,000	-1,400	+2,300

*TTS平均等について、①が9月21日～10月20日、②10月1～31日までで想定。①、②いずれも前月・当月CP50%案分。MB合成の比率は①、②ともにCP70%、MB30%で算定。①、②ともに中東・北米フレートを含むCFRコストを表示。

なお、上記MBは10月28日までの価格を基にEINで試算（442ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

①米国プロパンスポット価格推移



②米プロパン在庫推移(全米・メキシコ湾)

